

肉用牛肥育経営の収益動向と要因分析

石川 巧（財団法人 日本農業研究所）

1. 肉用種去勢若齢肥育経営の収益水準と動向

1) 1993 年をピークとする収益性の悪化について

表 1 は肉用種若齢肥育経営の収益動向を年次別に示したものである。

表 1 肉用種若齢肥育経営の収益動向

集計年度		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	
集計戸数		128	74	66	93	78	75	74	87	75	73	89	
平均飼養頭数	肉用種	69.4	71.0	72.9	74.0	77.1	74.0	87.0	107.0	101.5	110.4	120.3	
	乳用種	1.4	1.9	0.5	0.5	1.6	1.7	0.2	0.2	0.5	0.3	0.6	
	計	70.8	72.9	73.4	74.5	78.7	75.7	87.2	107.2	102.1	110.7	121.0	
売上高	肉牛販売収入	602,047	562,549	599,265	523,132	478,737	476,819	471,232	450,715	491,372	492,579	455,325	
	その他収入	9,911	4,009	4,257	9,047	5,018	5,143	7,782	4,283	3,493	4,422	5,365	
	計	611,958	566,558	603,523	532,179	483,755	481,962	479,014	454,998	494,865	497,001	460,690	
売上原価	期首飼養牛評価額	580,482	557,141	598,143	578,991	545,394	518,887	461,225	498,326	503,934	529,582	501,691	
	当期生産費用	もと畜費	343,102	332,761	304,689	289,067	212,867	229,928	237,565	256,192	258,875	246,619	242,892
		購入飼料費	119,521	116,204	121,296	122,300	123,005	111,285	106,293	118,389	122,898	125,931	121,428
		自給飼料費	3,682	2,663	1,901	2,694	3,909	1,112	1,005	1,148	860	1,083	612
		労働費	40,211	32,395	31,759	40,044	46,206	41,971	40,462	39,516	36,226	40,439	37,698
		減価償却費	16,073	15,137	13,329	15,230	16,705	12,175	13,086	13,366	12,497	14,045	11,711
		その他	22,158	20,585	19,945	24,009	25,291	25,047	20,635	22,704	22,354	23,544	23,261
	計	544,747	519,745	492,919	493,344	427,983	421,518	419,046	451,315	453,710	451,661	437,602	
	期中成牛振替額	4,452			3,231	3,043	749	1,432	791	946	1,697	6,194	
	期末飼養牛評価額	630,992	595,964	572,683	590,882	489,268	491,110	470,347	540,866	519,092	531,961	514,153	
売上原価	489,785	480,921	518,380	478,221	481,067	448,546	408,492	407,985	437,606	447,586	418,945		
売上総利益	122,173	85,637	85,143	53,958	2,688	33,416	70,522	47,013	57,259	49,414	41,744		
販売費・一般管理費	44,430	38,841	39,809	40,542	42,690	37,623	28,196	39,702	44,313	46,105	43,662		
営業利益	77,743	46,796	45,334	13,416	-40,002	-4,207	30,264	7,312	12,946	3,310	-1,918		
営業外収益	13,756	12,533	13,806	13,674	16,415	18,133	13,364	15,589	9,344	12,515	22,322		
営業外費用	39,031	32,711	31,326	30,317	30,123	28,062	18,947	22,828	15,808	19,639	18,065		
経常利益	52,469	26,618	27,814	-3,227	-53,710	-14,136	24,681	72	6,483	-3,814	2,339		
経常所得	91,964	58,127	58,979	35,958	-8,254	27,639	64,663	38,645	41,991	35,241	38,947		
償還額控除所得	36,903	7,502	19,136	-800	-37,042	3,424	40,116	16,143	22,941	3,879	-693		
償還額償却費加算額	52,976	22,639	32,465	14,430	-20,337	15,600	53,202	29,509	35,438	17,924	11,017		

(注) 各集計年度中に期末を迎えた経営診断対象経営の実績。

いずれも肥育牛1頭当たり。「畜産経営診断全国集計」総合集計結果をもとに作成。

これによると、1993 年度までは売上総利益、営業利益、経常利益、経常所得のいずれも減少し、特に 1993 年度は経常利益-53,710 円、経常所得が-8,254 円まで低落した。

1993 年までの収益性の悪化の要因は、1985 年度から上昇していた売上高が 1991 年度をピークとして 1993 年度以降、大幅に下落したことに加え、もと畜費が売上高の下落と同程度の水準で低落しなかったことによる。

2) 1994 年以降の収益性の回復傾向について

1994 年度以降の収益性は回復傾向にあり、1995 年度には営業利益が 30,264 円、経常利益が 24,681 円、経常所得 64,663 円まで回復した。その後 1996 年には売上高の落ち込みを要因として収益が落ち込むが、1997 年には売上高の回復に伴って収益性は回復傾向を示し、営業利益が 12,946 円、経常利益が 6,483 円、経常所得が 41,991 円となった。さらに 99 年度は売上高が 460,690 円とやや減少したため、営業利益-1,918 円、経常利益 2,339 円、経常所得 38,947 円となった。

1989 年度以降、売上原価は 40 万円台で推移しており、購入飼料費はほぼ 12 万円前後、労働費は 4 万円前後で推移していることから、収益性を左右する要因はもと畜費と売上高の動向によるところが大きい。

2. 乳用種去勢若齢肥育経営の収益動向について

1) 1989 年度から 1991 年度の収益動向について

表 2 は乳用種若齢肥育経営の収益動向を示したものである。

表 2 乳用種若齢肥育経営の収益動向

集計年度		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	
集計戸数		88	64	59	39	30	16	17	18	26	9	24	
平均飼養頭数	肉用種	4.0	8.3	6.6	12.7	14.3	4.8	5.8	1.1	0.7	0.0	5.8	
	乳用種	111.7	118.4	103.4	133.4	159.2	136.1	141.2	172.9	150.3	250.8	158.7	
	計	115.7	126.8	110.1	146.1	173.5	140.9	146.9	174.0	151.0	250.8	164.5	
売上高	肉牛販売収入	468,563	417,099	349,001	367,237	295,902	300,141	270,930	332,583	336,551	282,961	289,767	
	その他収入	9,755	5,778	3,172	8,425	14,353	12,268	9,114	4,015	15,308	5,727	20,793	
	計	478,318	422,877	352,172	345,662	310,255	312,409	280,044	336,598	351,859	288,688	310,560	
売上原価	期首飼養牛評価額	346,193	363,748	346,454	316,254	247,671	235,180	220,486	211,329	220,480	221,474	269,747	
	当期生産費用	もと畜費	216,001	206,326	122,770	113,207	98,168	87,797	71,688	105,955	123,434	68,398	80,939
		購入飼料費	136,588	143,912	144,595	151,791	143,738	166,503	136,823	151,926	153,598	136,780	148,342
		自給飼料費	904	682	563	1,805	1,848	957	171	219	117	0	116
		労働費	28,342	23,187	26,690	25,121	31,849	41,770	27,878	28,516	33,322	19,917	36,596
		減価償却費	10,084	9,208	9,403	9,942	11,353	11,047	8,199	10,001	8,154	7,638	11,661
		その他	19,291	20,632	17,649	24,793	20,451	18,571	19,024	13,981	22,163	21,461	24,744
	計	411,210	403,947	321,670	326,659	307,407	326,645	263,783	310,598	340,788	254,194	302,398	
	期中成牛振替額	612			653					225			
	期末飼養牛評価額	359,160	380,845	294,441	255,527	239,044	232,241	205,690	232,723	259,768	198,949	224,444	
売上原価	397,632	386,850	373,683	386,733	316,103	329,584	278,579	289,204	301,274	276,719	347,702		
売上総利益	80,686	36,027	-21,511	-11,071	-5,849	-17,175	1,465	47,394	50,585	11,970	-37,142		
販売費・一般管理費	28,899	27,656	23,519	27,154	24,189	22,756	18,817	25,907	23,493	19,422	24,003		
営業利益	51,788	8,371	-45,030	-38,225	-30,037	-39,931	-17,352	21,487	27,092	-7,452	-61,145		
営業外収益	22,101	21,641	25,308	28,251	25,545	22,178	17,199	18,236	14,665	15,441	22,865		
営業外費用	22,864	21,359	26,308	24,056	14,059	15,467	14,083	16,920	15,985	10,333	12,727		
経常利益	51,025	8,652	-46,029	-34,030	-18,551	-33,220	-14,236	22,804	25,772	-2,345	-51,007		
経常所得	78,653	31,136	-19,892	-9,708	11,893	7,953	13,011	50,507	57,843	15,911	-16,716		
償還額控除所得	36,471	5,383	-52,276	-30,320	-5,115	-11,065	-2,631	29,073	-12,256	4,957	-30,842		
償還額償却費加算額	46,555	14,590	-42,874	-20,377	6,238	-19	5,569	39,074	-4,101	12,595	-19,181		

(注) 各集計年度中に期末を迎えた経営診断対象経営の実績。
いずれも肥育牛1頭当たり。「畜産経営診断全国集計」総合集計結果をもとに作成。

これによると、1989年度以降は売上総利益、営業利益、経常利益、経常所得とも低落局面に入り、1991年度を底として大きく赤字幅が膨らみ、1992年度以降の赤字幅は縮小傾向に転じている。

1989年度から1991年度の収益性の低落要因は、1989年度以降のもと牛価格の低落以上に「1989年度以降の販売価格の低下と1988年度以降の肥育回転率の低下による売上高の減少」したことによる。

2) 1992年度以降の収益動向について

1992年度以降は赤字幅が縮小傾向に転じたが、その要因は1989年度から1995年度にかけてもと畜費がおよそ3分の1まで下落したことによる。

肉用種は1993年に収益性悪化のピークを迎え、1995年度には各指標が黒字化し回復傾向に向かった。一方で乳用種は、1991年に収益性悪化のピークを迎え、その後は収益性は回復したが回復のテンポは遅れ、各指標が黒字に転換したのは1996年度に入ってからである。

3) 乳用種若齢肥育経営の収益変動の要因について

1989年度以降は売上高が連続して減少し、1995年度には30万円を割り込み280,044円まで下落した。

1994年度は購入飼料費および労働費の増加により、1993年度よりも収益性をいったん悪化させたが、1995年度は再び購入飼料費、労働費が減少し、さらにもと畜費の低落によって売上総利益、経常所得が黒字化した。

1996年度からは売上高が30万円台を回復したことにより、各指標がすべて黒字に回復した。一方で購入飼料費は一貫して増加を続け、1996年度には15万円台に達した。さらにもと畜費は95年度の71,688円から96年度には105,955円、97年度には123,434円と再び増加に転じたため、売上高の回復に伴う収益性回復の足を引っ張った。しかし99年度には再び売上高の減少とともに、売上原価の拡大によって営業利益は-61,145円、経常利益は-51,007円、経常所得は-16,716円まで落ち込み、過去最悪となった。

4) 売上高に占めるもと畜費と購入飼料費の構成比の推移について

表3は乳用種去勢若齢肥育経営における売上高に占めるもと畜費と購入飼料費の構成比を年次別に示したものである。

表3 乳用種去勢若齢肥育経営における売上高に占めるもと畜費と購入飼料費の構成比

	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
もと畜費構成比	45.2	48.8	34.9	32.8	31.6	28.1	25.6	31.5	35.1	23.7	26.1
購入飼料構成費	28.6	34.0	41.1	43.9	46.3	53.3	48.9	45.1	43.7	47.4	47.8

(注) 各集計年度中に期末を迎えた経営診断対象経営の実績。

いずれも肥育牛1頭当たり。「畜産経営診断全国集計」総合集計結果をもとに作成。

これによると売上高に占めるもと畜費の割合は1989年度には45.25%に達したが、1995年度には25.6%にまで下落した。一方、購入飼料費の割合は1989年度には28.6%にすぎなかったが、1995年度には48.9%まで上昇した。その後、変動はあるもののもと畜費は30%弱、購入飼料費は50%弱を占めていることから、もと畜費の動向よりも購入飼料費の動向がより強く収益性を左右する傾向が続いている。

3. 飼養頭数規模別にみた収益性の分析

1) 肉用種去勢若齢牛肥育経営における飼養頭数規模別にみた損益の動向

表4は1995年度および97、99年度における肉用種去勢若齢牛肥育経営の飼養頭数規模別にみた損益の動向を示したものであり、それぞれ肥育牛年間1頭当たりの数字を示している。

表4 肉用種去勢若齢牛肥育経営の飼養頭数規模別にみた損益の年次別動向

		30～50	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		売上高	1995年度	486,704	494,205	451,882	473,001
	1997年度	515,625	476,790	450,871	496,793	535,002	545,656
	1999年度	431,235	472,355	467,959	474,147	451,596	455,511
		30～50	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		売上原価	1995年度	397,698	436,783	403,920	392,998
	1997年度	467,589	410,493	416,988	419,027	481,695	476,725
	1999年度	398,538	436,314	393,826	430,348	430,186	406,711
		30～50	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		営業利益	1995年度	42,616	16,280	14,149	37,442
	1997年度	1,791	22,686	-1,133	34,536	10,471	21,200
	1999年度	-9,713	-9,498	27,650	-1,242	-16,941	8,024
		30～50	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		経常利益	1995年度	39,725	3,401	4,271	29,497
	1997年度	-4,183	15,553	-3,474	27,419	4,831	16,570
	1999年度	-13,098	-5,877	34,555	6,717	-16,176	21,681
		30～50	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		経常所得	1995年度	88,910	40,157	36,492	61,954
	1997年度	37,850	52,787	32,917	55,379	31,688	34,599
	1999年度	34,963	36,920	66,358	40,546	6,035	38,080

(注)各集計年度中に期末を迎えた経営診断対象経営の実績。
いずれも肥育牛1頭当たり。「畜産経営診断全国集計」総合集計結果をもとに作成。

これによると、各階層別に特徴的な動向を見いだすことはできないものの、1999年度においては70～100頭層が営業利益、経常利益、経常所得などの指標が他の階層よりも高く、150～200頭層が他の階層に比べて落ち込んでいる。

2) 乳用種去勢若齢牛肥育経営における飼養頭数規模別にみた損益の動向

表5は乳用種去勢若齢牛肥育経営の飼養頭数規模別にみた損益の状況を示したものである。

表5 乳用種去勢若齢牛肥育経営の飼養頭数規模別にみた損益の年次別動向

		50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		売上高	1995年度	279,604	265,262	307,057
	1997年度	398,517	332,685	327,308	333,583	400,594
	1999年度	284,079	287,878	277,863	310,598	319,213
	売上原価	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		1995年度	317,541	259,524	332,450	254,756
	1997年度	323,679	296,223	280,803	302,166	324,745
	1999年度	387,258	336,607	312,928	332,860	321,433
	営業利益	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		1995年度	-57,653	-14,805	-47,109	2,074
	1997年度	50,327	12,317	23,269	7,941	53,193
	1999年度	-115,194	-80,267	-50,767	-44,338	-21,696
	経常利益	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		1995年度	-62,471	-7,185	-62,614	13,642
	1997年度	42,866	9,971	21,885	5,743	57,566
	1999年度	-105,763	-66,977	-48,783	-30,644	-7,139
	経常所得	50～70	70～100	100～150	150～200	200～
		1995年度	-28,085	19,433	-29,494	35,185
	1997年度	90,035	48,708	53,583	35,710	76,614
	1999年度	-26,481	-31,012	-23,594	-5,838	18,332

(注)各集計年度中に期末を迎えた経営診断対象経営の実績。
いずれも肥育牛1頭当たり。「畜産経営診断全国集計」総合集計結果をもとに作成。

これによると1999年度においては規模が拡大するにつれて売上高は増加し、売上原価は低下した。結果として営業利益、経常利益、経常所得などの指標は規模拡大にともなって上昇した。この傾向は1999年度において明快に現われている。